

事務事業評価表（建設事業等）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年 3月 31日
2次評価日（課長等）	26年 5月 31日

1 事業名	湊財産区管理運営事業			コード	161206	
2 担当部課	部等	総務部	課等	湊支所	作成者	宮坂 文利
3 事業概要	目的体系	基本目標	総合計画の推進に向けて			
		政策	総合計画の推進に向けて	施策	市民総参加のまちづくり	
		予算科目	湊財産区	業務委託	一部委託	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	あり	

●事業の実施内容（D0）

4 事業の概要等	* 対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	山林、里山の維持管理、経営及び計画。		
目的	対象者	市民	
	意図	治山及び森林の持つ公益的機能の発揮、山林活動を通じた住民福祉の向上。	

5 事業の必要性	* 事業を計画した当時、この事業が必要になった状況・理由
<p>H18年の豪雨災害により、山林に関する意識は高まっており、水源涵養や治山の観点から間伐事業等による整備を推進し、長期的な山林の将来像を描く必要がある。</p> <p>一方で、湊財産区の財産である立木については材価の低迷が続いている。財政状況も依然として厳しい中にあり、持続的な林業経営に向けた道筋をつけることが急務となっている。</p> <p>山林の持つ多面的な機能、価値についても再認識されるようになっており、住民の憩える故郷の里山として守り育てていく事が必要である。</p>	

6 事業の全体計画	* 各年度の取組計画			
予定全体事業費	87,478,000	円	事業期間	平成12年度～34年度
23年度まで	搬出間伐事業5.03ha			
24年度	森林経営計画4団地での間伐事業 15.32ha			
25年度	森林経営計画4団地での間伐事業 33.28ha			
26年度以降	森林経営計画4団地での間伐事業 36ha			

7 事業の実施内容	* 各年度の進捗状況		
23年度まで	間伐事業152.36ha カラマツほか		
24年度	森林経営計画4団地での間伐事業 15.32ha カラマツ他 （行峠団地10.16ha、沢入南団地5.16ha）		
25年度	森林経営計画4団地での間伐事業 15.32ha カラマツ他 （水生団地9.37ha、沢入北団地18.9ha、沢入南団地5.01ha）		
前年度の課題への対応	水生団地のヒノキ林について、諏訪森林組合による間伐事業を実施した。経営を安定させるため、低コスト林業を目指す必要があり、県補助を受けた路網678mの作設を行った。		

8 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度まで(累計)	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	59,247,176	2,089,500	3,192,000	5,636,000
経常経費	59,247,176	2,089,500	1,890,000	2,396,000
臨時的経費	0	0	1,302,000	3,240,000
* 臨時的経費の説明	森林作業道作設委託事業			
② 人件費		4,000,000	4,000,000	4,000,000
正規職員の人数(人)		0.50	0.50	0.50
③ 合計コスト(①+②)	59,247,176	6,089,500	7,192,000	9,636,000
前年度比			118.1%	134.0%
財源	59,247,176	6,089,500	5,892,000	6,636,000
一般財源	59,247,176	6,089,500	5,892,000	6,636,000
内訳	0	0	1,300,000	3,000,000
* 特定財源の説明	林業再生総合対策事業補助金(県補助事業)			

●事業の評価(CHECK)

9 事業の進捗状況

区分	23年度まで(累計)	24年度	25年度	26年度(予算)
進捗率	67.7%	70.1%	73.8%	
直接事業費の執行率	67.7%	70.1%	73.8%	
その他の進捗率				
* その他の進捗率の説明				

事業をとりまく環境変化	今まで	<p>(これまでに生じた政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業に影響があったこと)</p> <p>H14年度以降、山林保育を目的とした切捨て間伐を実施していたが、搬出間伐が補助制度の要件となった事に伴い、H19年度より材価の動向を見ながら搬出間伐を行なってきた。</p> <p>H24年度以降は、森林経営計画の策定が補助要件となった事から、財産区山林に関しても4団地の計画策定を行い、順次搬出間伐事業を実施した。</p> <p>H18には豪雨災害を経験し、山を守る意識、関心が高い地域でもある。地域の活動の中で植樹活動を行っており、H25には湊小学校のみどりの少年団結団式に合わせて、カラマツ500本の植樹を行った。</p>
	今後	<p>(26年度以降に予測される政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業の進行・完了に影響すると思われること)</p> <p>本年度より森林経営計画による山林整備が実施され、所有林内の間伐事業を着実に推進している。</p> <p>材価は依然として低迷し、経営も厳しい状況が続いているが、県産材の利用促進、低コスト林業等へシフトしている補助制度の動向を引続き注視しながら、持続可能な林業経営に努める。</p> <p>山を守る意識や里山への関心は、年々高まっており、里山を活用した活動を引続き推進していく。</p> <p>将来を担う子ども達が樹を植える体験は貴重であり、今後も継続していきたい。</p>

●改善の内容(ACTION)

10 今後の課題と対応策

今後の課題	<p>(環境変化を考慮して事業を進めていく上で、26年度以降に課題になること)</p> <p>財産区山林の8割が人工林で、その内8割が戦後に一斉に植林されたカラマツとなっている。樹種、林齢の構成が極端になっているため、樹種、林齢の多様な山へ緩やかに変遷させ、持続可能な森林経営と治山、水源涵養を目指す必要がある。</p> <p>また、カラマツの活用と更新、低コスト林業に向けた山林整備など、山積する課題に向けて、これまでに無い取り組みが求められている。</p> <p>ヒノキについては、20年生前後になっており、除間伐、枝打ちが必要な時期になっている。</p>
課題への対応策	<p>(上記の課題をふまえて26年度に実施する、具体的な対応方法)</p> <p>カラマツについては長伐期の計画を立て、間伐による優良木の育成を引続き推進するだけでなく、材価の動向も見ながら、徐々に主伐も行い、緩やかな更新を目指す。</p> <p>植林や育林、保育については、地域活性化事業や里親事業との共同作業を行う等、地域や民間の活力を積極的に導入する。</p> <p>国の政策、県の森林税事業や、F-POWERプロジェクトの動向に注視し、低コスト林業や木材利用促進の時流に乗り遅れないよう情報の収集に努めると共に、研修等により理解を深める。</p>

●次年度の計画(PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること
-----------	--------	---